

2023年度 発達保障学校

SYLLABUS

(講義計画)

人間発達研究所

<p>コース名 「入門の入門」コース</p>	<p>2023年度回数 3回</p>	<p>担当者 安藤史郎・武居誠・松永朋子</p>
<p>授業の内容</p> <p>入職後3年くらいまでの方が対象のコースです。乳幼児期から成人期を対象とする方まで、グループトークもしながら学び合います。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。そのような見方・考え方の入り口に立てることをめざします。ミニ講義を通して、発達や発達保障について基本的なことを学び、実践の楽しさや難しさについて、みんなで話し合しましょう。</p>		
<p>授業の流れ *日程については、企画時の予定です。変更となる場合もあります</p> <p>6月18日(日) 9:00~12:00</p> <p>担当者自己紹介&参加者自己紹介 ミニ講義「発達の理解を実践に活かすって？」 ——事例を通して、みんなで学び合いましょう——」</p> <p>グループトーク① ミニ講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい グループトーク② 仕事をしていて「楽しいこと」「難しいこと」のわかちあい (年度当初)</p> <p>まとめ 担当者からの発言と意見交流 宿題 「次回までにこんなことをしてみよう！」</p> <p>9月10日(日) 9:00~12:00</p> <p>グループトーク 「これをしてみよう！」をやってみてどうだったかのわかちあい ミニ講義「発達を学んで？」</p> <p>グループトーク① ミニ講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい グループトーク② 仕事をしていて「楽しいこと」「難しいこと」のわかちあい (年度半期を迎えて)</p> <p>まとめ 担当者からの発言と意見交流 宿題 「気になるニュースを切り抜こう」</p> <p>11月26日(日) 9:00~12:00</p> <p>グループトーク① 「気になるニュース」のわかちあい ミニ講義 「私たちの仕事と社会のつながりについて」</p> <p>グループトーク② 仕事をしていて「楽しいこと」「難しいこと」のわかちあい (年度末・新年度にむけて)</p> <p>まとめ 担当者からの発言と意見交流</p>		
<p>その他</p> <p>マイクとカメラを使って、お互いに顔を見ながら話し合えたらと思います。難しいようでしたら、チャットでもご発言ください。</p> <p>日々の仕事にかかわって、「こんな話を聴いてみたい」などのリクエストをぜひ担当者にお伝えください。可能な範囲で、講義部分でお話しできるようにします。</p>		

<p>コース名 発達入門コース</p>	<p>2023年度回数 5回</p>	<p>担当者 高田智行</p>
<p>授業の内容</p> <p>「発達とは？」からはじまって、0歳から就学前までの発達の道筋を追いながら発達の基礎を学ぶコースです。発達は「～歳の発達の特徴は…」というように定点で捉えるのではなく、つながりの中で捉えることが大切で、そうすることでみえてくることがあります。そのみえてきたことを実践の中でどう活かしていくか、乳幼児健診や保育等の発達保障実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p>		
<p>第1回 6月 25日（日） pm</p>		
<p>講義1：発達といいますが…発達とは？</p> <p>保育や療育等の実践現場では、「発達」ということばを当たり前のように使うことがありますが、生活の中で「発達」ということばを使うことあまりありません。あらためて「発達」とはどのようなことなのかについて考えてみます。</p>		
<p>講義2：発達のしくみ</p> <p>「発達のしくみ」や「発達をどう捉えるか」について、田中等による「可逆操作の高次化における階層・段階理論」をもとに学びます。</p>		
<p>第2回 7月 23日（日） pm</p>		
<p>講義3：乳児の世界から幼児の世界へ</p> <p>乳児期から幼児期への「生後第2の新しい発達の原動力の誕生」から1歳半の発達の節を越え「1次元可逆操作」獲得までの発達について学びます</p>		
<p>実践1：乳幼児健診の実践を通して</p> <p>講義3の内容について、乳幼児健診における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>第3回 8月 20日（日） pm</p>		
<p>講義4：対の世界をゆたかに開く</p> <p>1歳半の発達の節を越え獲得した「1次元可逆操作」の力がどのように「対の世界（2次元形成の世界）」を開いていくのかについて学びます。</p>		
<p>実践2：子育て支援の実践を通して</p> <p>講義4の内容を踏まえ、「対の世界をゆたかに開く」とはどのような事なのかを、子育て支援の実践を例に考えます。</p>		
<p>第4回 9月 24日（日） pm</p>		
<p>講義5：揺れながら自分をつくる</p> <p>対の世界（2次元形成）がゆたかに開いていくことが、4歳の発達の節を越え「2次元可逆操作」を獲得していくこととどのように関係しているのかについて学びます。</p>		
<p>実践3：保育の実践を通して</p> <p>講義5の内容について、保育所巡回相談における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p>第5回 10月 22日（日） pm</p>		
<p>講義6：幼児の世界から学童の世界へ</p> <p>就学前のまとめの時期でもある「生後第3の新しい発達の原動力の誕生」について、9・10歳の発達の節を越えることを視野に入れながら学びます。</p>		
<p>講義7：これからの実践に向けて…あらためて「何のために発達を学ぶのか？」</p> <p>実践において、「発達」を学ぶことがどう活きるのか、そしてどう活かすのかについて考えます。</p>		

<p>コース名 実践を学び合うコース</p>	<p>2023年度回数 5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p>授業の内容</p> <p>最近の障害児の入所施設の入所理由は虐待や暴力からの擁護・保護が多いそうです。目の前の障害のある子どもたちの姿には、その背景にある家族との生活の時間や関わりなどが、その子の日常の姿にも大きく影響をしてきて、その子の姿を捉えていくことが複雑化・困難化してきている、でもそこを共有することなしにその子の「明日が拓かない」というのが実感ではないでしょうか。また、8050とその先の問題。知的障害者の実践現場では高齢化が進み、両親と共に生活してきたけれども、親御さんが亡くなってしまって新しい生活スタイルを模索しなければならなくなってきて、次「どうしていくことが必要なのか悩んでいる」という人も多く見られていたりします。</p> <p>それぞれの実践現場では、「それぞれなりに曲がり角」にさしかかっている、どうしても問題点ばかりが議論されて、息がつまりそうだという声もまたよく耳にします。でも、「本当に本人さんの声から実践や取り組みや支援を組み立てることができていますか？」</p> <p>そう感じてしまうときというのは、実践のなかで、目の前の彼女たちの「らしさ」を、いつ、どこで、どういうときに、どんなタイミングでどうみられたの？とか、その人の歴史の中からその人となりを感じることに「エピソードでいいから話しをすること」が足りないのではないかと思います。それは、本来楽しいものです。そうなるような雑談をレポートにしたものでも、議論の入口にして、何が大切なのか共有できるような力量をつけていきましょう。このコースでは日々向き合っている障がいのある子どもや青年の姿、とりくみ（活動や仕事）を、参加している多様な職場の人たちの眼でいっしょに解きほぐすことで、自分の実践を多様な視点から見直してみることで、「わたしも、なかなかやん」と自信を取り戻したり、その実践がもつ価値を確認したり、子どもたちの内にある「ねがい」にも触れる、そして新たな発見や気づきに出会える、そんなコースです。具体的には、参加者が実践報告をします。その報告について、参加者みんなで議論しながら、時にテーマをもって討議を行います。自らの発達保障の実践の推進力や幅を広げていくコースだといえるでしょう。これまでの実践報告や昨年度のまとめなどをいろんな角度から学び直しませんか。また、実践報告からの学びだけではなく、簡単な文献読解や講師のミニ講義も必要に応じて行うゼミナールです。昨年は「徹底的に向き合う」ことがもつ力について話題になりました</p> <p>このコースは、若手の実践者であったり、ベテランの管理者であったり、教員、保育士であったり支援員であったり、学童保育の指導員であったりと、多様な参加者で構成されることが続いてきています。それぞれこのコースに期待するところも異なりますから、やや総花的な話になったりはしますが、その人の将来の姿や家庭での暮らしぶりが連想できたりして、支援の方向性の視点がおぼろげに見えてくるきます。</p> <p>みんなでレポートを出し合って、じっくりたっぷりその人のことを話し、意見交換や議論する中で、「気づき」が見られるようになれば、「ニヤリ」と得した時間にしていく、それが獲得目標です。人間が好きになるそんなコースにしたいですね。</p>		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 6月25（日） <u>9:30～12:30</u> 自己紹介、実践状況、私の学びたいこと、ミニ講義</p> <p>第2回 8月20（日） 13:00～16:00 実践報告① 実践報告② ふりかえりとコメント</p> <p>第3回 10月22日（日） 13:00～16:00 実践報告③ 実践報告④ ふりかえりとコメント</p> <p>第4回 11月19日（日） 13:00～16:00 実践報告⑤ 実践報告⑥ ふりかえりとコメント</p> <p>第5回 12月17日（日） 13:00～16:00 実践報告⑦ ふりかえりとコメント まとめ講義</p>		

※予備日 上記の日程で終わらない場合に予備日の設定がある

※年度途中で、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください

コース名 福祉政策コース	2023年度回数 5回	担当者 田村和宏
<p>授業の内容</p> <p>(概要)</p> <p>2022年度は、障害者総合支援法改正の進捗について学びあいました。中間報告書を分担して報告しながら、どのような方向に向かうのかについて議論をしてきました。2023年度から子ども家庭庁がスタートとなり、新たな枠組みが示されてくるのでしょうか。インクルーシブということばも飛び交っていますが、はたしてだれのためになる改革になるのでしょうか。そういった意味では、制度改革の節目の時期です。少し子どもだけでなく全体的な制度改革の流れや背景について、参加者に分担報告もしてもらい、主体的に学びあうゼミとします。</p> <p>(学びの概要)</p> <p>この変化の根元にある「狙い」は何でしょうか。それは、「権利としての社会保障」から「共助・連帯としての社会保障」への理念の転換だと考えています。このことがいまの政府の支柱です。いまの政府の支柱のもうひとつが「我が事丸ごと地域共生社会の実現」。このことあわせて、どこがどうおかしな考えなのかを確かめてみましょう。</p> <p>またここ数年は、実践者や支援者自身が悩む日々が続いているわけですが、私たちが情勢負けしない実践をすすめていくためには、どういう見方や考え方や支理論を持つのが問われています。情勢などを把握しつつも、意見交換のなかで大切にすることや軸を共有したいと思います。</p> <p>(各回の内容)</p> <p>1回目に参加者の学習要求を出し合って、その方向性に沿いながらゼミの計画を立てます。参加者が障害者分野ばかりの場合は、社会保障審議会の障害者部会等の議論や子ども家庭庁の議論を分担して報告してもらいながら、その狙いについて深めていきます。保育園や学校、高齢者福祉や生活困窮者支援や家庭福祉などその他の関係者が参加の場合は、関連する領域・施策をテーマにした回を組み込む予定です。また、ライフサイクルにも留意してのテーマも検討します。</p> <p>例えば以下のようなテーマで議論することもあるかもしれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「児童発達支援センターの機能や役割は何が求められているか」 「強度行動障害者の地域での生活に必要なことについて」 「医療的ケアが必要な子どもたちの地域生活 多職種連携による地域生活の現状と課題」 「障害者施設の高齢化と重度化－どこで最後を迎えるか」「介護保険と障害者総合支援法」 「生活を考える－放課後の過ごし、土日の過ごし、長期休暇の過ごしと本人の要求」 「意思決定支援は障害の重い人にも有効か」 「障害児における社会的養護の現状とこれからの方向性」 「地域で暮らすとは・・・グループホームを考える」 		
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回 6月25日（日）<u>13:30～16:30</u> 自己紹介と問題関心の交流 ミニ講義</p> <p>第2回 7月30日（日）13:00～16:00 分担報告 + ミニ講義（児童発達支援）</p> <p>第3回 8月27日（日）13:00～16:00 "（放課後・学童保育）</p> <p>第4回 10月29日（日）13:00～16:00 "（暮らす）</p>		

第5回 11月26日(日) 13:00~16:00 分担報告 +まとめ(インクルーシブについて)

※年度途中で、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。

<p>コース名 発達基礎理論研究コース</p>	<p>2023 年度回数 10回</p>	<p>担当者 荒木穂積</p>
<p>講義内容・テーマ</p> <p>本コースでは、田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称する）の学習を、田中昌人らの著作や文献・資料に戻りながらすすめていきます。今年度は、乳児期後半の階層（生後6・7か月頃から1歳半頃）の学習をすすめます。あわせて療育記録映画『夜明け前の子どもたち』（1968年制作）の映像や解説も取り上げ、重症心身障害児といわれている人たちの発達の諸問題も取りあげます。</p> <p>前半では、田中昌人「人間の発達」（『みんなのねがい』No.196-263：全54回、1985年-1990年）の内、第18回（No.214）-第54回（No.263）をテキストに乳児期後半の階層の発達と障害の基礎的理解をすすめます。</p> <p>後半では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』」理論（『階層－段階』理論と略称）と発達診断の実際に焦点をあてて学習をすすめてゆきます。テキストは田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断2：乳児期後半』大月書店、1982年です。併行して田中昌人『乳児の発達診断入門』大月書店、1985年、田中昌人『人間発達の科学』青木書店、1980年、田中昌人『人間発達の理論』青木書店、1987年、田中杉恵『発達診断と大津方式』青木書店、1990年などの文献を手がかりに学習をすすめてゆきます。</p> <p>本コースではエキストラとして冬期に集中講義を計画します。今年度は「赤ちゃん研究と言語発達」の現状と課題を学ぶ予定です。</p> <p>発達入門コース、発達診断方法論（基本編・臨床編）コース、研究科を履修中の入または修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人など、乳幼児期の発達理論や実践に興味や関心のあるみなさんの参加を期待しています。</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>第1回目：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論の歴史的変遷（概要）と乳児期前半の階層（動画）の視聴および前半テキスト1「人間の発達」の発表分担（前半）</p> <p>第2回目：テキスト1「人間の発達」第18回～第21回（発達の新しい舞台づくり）</p> <p>第3回目：テキスト1「人間の発達」第22回～第28回（三つの発達段階、新しい発達の力の誕生）</p> <p>第4回目：テキスト1「人間の発達」第29回～第38回（「1の字」を描きはじめる、自我の誕生）</p> <p>第5回目：テキスト1「人間の発達」第39回～第54回（制度上の改革の課題、生後第2の新しい発達の力が発生するまでの障害、『夜明け前の子どもたち』のミツイ君の変化、生後第2の新しい発達の力が飛躍していくところでの障害、新しい時代を拓くために）</p> <p>※前半のふりかえり）とテキスト2『子どもの発達と診断2：乳児期後半』の発表分担（後半）</p> <p>第6-10回目：『子どもの発達と診断2：乳児期後半』（テキスト2）を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「乳児期後半の三つの発達段階」（テキスト2：pp.10-32） (2) 「新しい力の誕生－10か月児」（テキスト2：pp.33-104） (3) 「幼児期への飛躍－18か月児」（テキスト2：pp.105-185） (4) 「すこやかな発達のために」（テキスト2：pp.186-231） (5) 乳児期後半の発達の階層（連結可逆操作期の階層）：6,7か月頃から18か月頃のふりかえり 		

テキスト

- (1) 田中昌人「人間の発達」『みんなのねがい』第1回 (No.196) ～第17回 (No.213) , 全国障害者問題研究会出版部,1985年～1986年
- (2) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断1：乳児期前半』大月書店, 1981年

参考書・DVD・動画など

- (1) 田中昌人『人間発達の科学』青木書店,1980年
- (2) 田中昌人『人間発達の理論』青木書店,1987年
- (3) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』(1～8巻) DVD版,大月書店,2009年
- (4) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にみる子どもたち』(1～6巻) DVD版,大月書店, 2009年
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅰ』大月書店,1984年
- (6) 田中昌人『乳児の発達診断入門』大月書店,1985年
- (7) 田中杉恵『発達診断と大津方式』青木書店,1990年
- (8) 京都教職員組合養護教員部(編) 田中昌人講演記録『子どもの発達と健康教育①——「人しりそめしほほえみ」から「我知りそめし心のいとなみ」——』クリエイツかもがわ, 1988年
- (9) 田中昌人『講座発達保障への道〈2〉——「夜明け前の子どもたち」と、ともに——』全国障害者問題研究会出版部,1974年(復刻版,2006年)
- (10) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻——田中昌人の研究を引き継ぐ——』クリエイツかもがわ,2007年
- (11) 田中昌人『発達研究への志』あいゆうびい,1996年
- (12) 田中昌人『発達の土割』あいゆうびい,2001年
- (13) 中村隆一・渡部昭男(編著)『人間発達研究の創出と展開——田中昌人・田中杉恵の仕事をとおして歴史をつなぐ——』群青社,2015年
- (14) 志村洋子『赤ちゃんとの話し方——0歳児の頭と心を育てる“マザリーズ”のすすめ——』ごま書房(ゴマブックス),1993年
- (15) 高橋道子『微笑の発生と出生後の発達』風間書店,1995年
- (16) 板倉昭二『心を発見する心の発達』京都大学学術出版会(学術選書),2007年
- (17) 開一夫『日曜ピアジェ 赤ちゃん学のすすめ』岩波書店(岩波科学ライブラリー), 2007年
- (18) 開一夫『赤ちゃんの不思議』岩波書店(岩波新書),2011年
- (19) 明和政子『ヒトの発達の謎を解く』筑摩書房(ちくま新書),2019年
- (20) 明和政子・NPOブックスタート『人類の育児スタイルは共同養育』(子ども・社会を考えるシリーズ)ブックスタート,2020年
- (21) 今福理博『赤ちゃんの心はどのように育つのか——社会性とことばの発達を科学する——』ミネルヴァ書房,2019年
- (22) 山口真美『赤ちゃんは顔をよむ』(角川ソフィア文庫)角川学芸出版,2013年
- (23) 山口真美・金沢創『赤ちゃんの視覚と心の発達 補訂版』東京大学出版会,2019年
- (24) フィリップ・ロシャ(著), 板倉昭二・開一夫(監訳),小林哲生・旦直子・村井千寿子・小杉大輔・麦谷綾子・石田開(訳)『乳児の世界』ミネルヴァ書房,2004年
- (25) リザ・エリオット(著), 小西行郎(監修)・福岡洋一(訳)『赤ちゃんの脳と心で何が起きているの?』楽工社,2017年

(26) 高谷清『重い障害を生きるということ』岩波書店(岩波新書),2011年

(27) 田村和宏・玉村公二彦・中村隆一『発達のはかりは時代に充ちたか?—療育記録映画「夜明け前の子どもたち」から学ぶ』クリエイツかもがわ,2017年

その他

本コースは,レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや動画など視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中で関連文献や資料を紹介・配布する予定です。

コース名 <心理専門職コース> 発達診断方法論 基本編コース	2023年度回数 1回	担当者 木下孝司
授業の内容 発達診断と、保育・教育の専門性に基づいた子ども理解には、方法論の相違もありますが、子どもの内面世界を読み解き、その願いや悩みを再発見するという目標は共有されるものです。このコースでは、保育・教育のための発達診断を進めるために必要な、発達理解の基本を確認します。その上で、心理学に必要な子ども理解と実践的な子ども理解を接続する方法論を検討していきます。		
授業の流れ 8月19日（土） 1) 講義 保育・教育のための発達理解の基本 13時～14時10分 発達理論の必要性、発達理解の基本（機能関連、発達関連、発達の原動力と源泉など）を確認して、保育・教育においてそうした発達理解が不可欠であることをお話します。 （休憩20分） 2) ゼミ 発達診断における私の試みと悩み 14時30分～16時 発達診断において、それぞれの方が実践されている工夫や悩みを報告していただき、それらが理論的にもつ意味について議論します。その中で、「発達診断方法論 臨床編」における各自の学びのポイントを整理できればと思います。		

<p>コース名 <心理専門職コース> 発達診断方法論 臨床篇コース</p>	<p>2023年度回数 5回</p>	<p>担当者 松島明日香</p>
<p>授業の概要</p> <p>発達診断方法論 臨床篇コースは、実際に発達相談や教育相談に従事しようとする（あるいは、現にしている）人たちを対象にしています。受講にあたって、発達診断方法論基本編コースを受講しておられると理解がより深められると思います。</p> <p>本コースでは、主として発達の階層－段階理論に依拠しながら、子ども一人ひとりの発達を理解するための発達診断の方法論について事例を通して学んでいきます。子どもの発達は多様で、変化に富んでいます。それは魅力的である反面、発達理解において難しさを伴います。そこで本コースでは以下の2点に重点を置いて進めていきます。</p> <p>①理論的根拠をもった発達診断や発達の子ども理解</p> <p>発達検査場面で見せる子どもの反応から、「できた」「できない」ということが発達の何を意味するのか、さらには子どもの“できかた”や“取り組みかた”をどのような視点でとらえることが大切かを発達理論や発達研究を軸にしながら学びます。加えて、発達の見立てが難しいという声が多々聞かれる自閉スペクトラム症などの発達障害を抱える子どもの発達診断について、発達を診断するとはどういうことかについても考えていきます。</p> <p>②発達相談員が悩みややりがいを共有する場</p> <p>発達相談に従事する人は、業務の性質上、ケースを一人で抱え込んだり、自分の進めかたや見立てに一人で悩んでいることが少なくありません。同じ立場の人たちが集い、悩みを分かち合ったり、見立てを確かめ合ったり、さらには繋がりをつくる場にしたいと考えています。授業は対面で実施し、基本的に受講者の皆さんが発達診断において悩んでいる事例などを持ち寄りながら 検討していく形式で進めていく予定です。</p>		
<p>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>第1回：発達診断の概要</p> <p>第2回：1次元可逆操作期（1歳半頃）の発達と発達診断</p> <p>第3回：2次元形成期（2,3歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第4回：2次元可逆操作期（4歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第5回：3次元形成期（5,6歳頃）の発達と発達診断</p>		
<p><参考図書></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 白石正久・白石恵理子『教育と保育のための発達診断 新版 下巻』全障研出版部 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断3 幼児期Ⅰ』大月書店 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断4 幼児期Ⅱ』大月書店 ▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断5 幼児期Ⅲ』大月書店 ▪ 荒木穂積・松島明日香・中村隆一・竹内謙彰・富井奈菜実「新しい発達診断法開発プロジェクト報告資料集 幼児期における発達の基本構造の検出と発達診断上の留意点」 		

コース名 研究科	2023年10月～ 2025年10月	担当者 渡部昭男・山田宗寛
<p>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</p> <p>2年間で研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。 <u>申し込みをされたら面接をオンライン（zoom）で行い、受講を決定します。</u> 2か月に1回程度の全体ゼミと発表会（zoomで開催）、指導教員とのやりとりで執筆を支援します。</p> <p>紀要への投稿は、先行研究やテーマの妥当性・独自性が必要な原著の他に、実践記録、事例検討、研究ノート、動向、報告、実践紹介、資料等があります。発達に関わる論文の場合は、心理学の基礎的学習を終えられていることが望ましいです。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>オリエンテーション、2年間のスケジュールの内定 計画発表会・指導教員（正・副）の委嘱（6か月目） 中間発表会（12か月目） 予備論文発表会（18か月目） 査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目） 査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>※指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。</p>		

<p>集中講義 実践が楽しくなる実践記録</p>	<p>2023年度回数 1回</p>	<p>担当者 坂本彩 竹澤清</p>
<p>授業内容・テーマ</p> <p>実践記録を書くとてもいいことがあります。 書くことが苦手と感じる人もいるかもしれません。伝えたいことを伝える言葉がなかなか出てこない人もいるかもしれません。そんな人たちが一緒に学んで、実践記録を書き、「いいこと」を味わってみませんか？</p> <p>実践記録は「客観的事実を正確に書き写した」ものではありません。そこには目の前にいる人の多様な姿や思い、そして、実践に込められた私たちの思いが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは相手の思いを発見することができると同時に、「自分たちがなぜこの実践に取り組んだのか」という自分たちの意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることにも繋がる重要なプロセスなのです。</p> <p>大切なことは、自分たちの実践に実践者なりの意味づけがなされ、そのような姿を導いた実践自体への面白さや価値に気づくことにあります。そして、それをどのように表現するのか、目にした現象を実践者なりの“言葉”で語る力が必要になります。</p> <p>実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていくとともに、それをどのように実践記録としてまとめていけば良いのか。実践の多様な見方・考え方を発見したい人、表現する自分なりの“言葉”を見つけない人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、一緒に学びましょう。</p>		
<p>授業の流れ</p> <p>8月27日（日）12:45～16:45</p> <p>講義1 坂本彩（人間発達研究所運営委員） 「実践記録を書いたら、どんないいことがある？」</p> <p>講義2 竹澤清（元愛知県聾学校 あいち障害者センター） 「記録を問うことは、実践を問うこと——実践につなぐ記録——」</p> <p>ワーク 進行 坂本彩（人間発達研究所運営委員）</p> <p>振り返り （適宜休憩をはさみます）</p>		

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>
